

Visual R Platform バージョン 1.1 の変更点

2014年9月12日

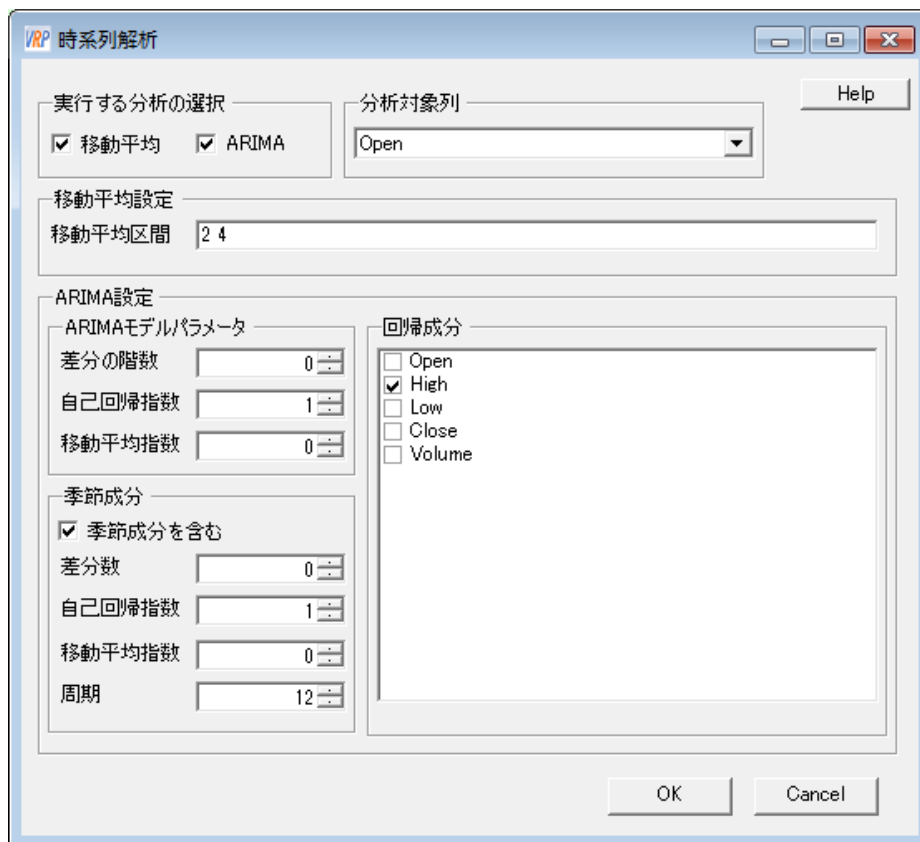
株式会社 NTT データ 数理システム

新規アイコンの追加

新たな処理アイコンが3つ追加されました。

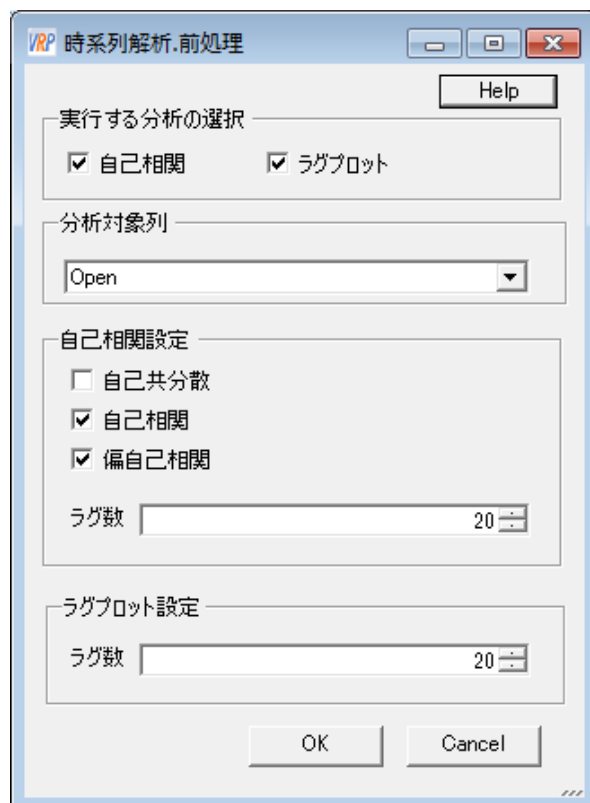
時系列分析

時系列データについてフィッティングまたは予測・検証を行うアイコンです。手法としては、移動平均または ARIMA モデルを選択することができます。



時系列分析前処理

時系列データの性質、特に系列相関をもつかどうかを調べるためのアイコンです。自己相関の計算、ラグプロットを行うことができます。



クリーニング

データに含まれる欠損値や外れ値を検出し、代替値を設定するためのアイコンです。

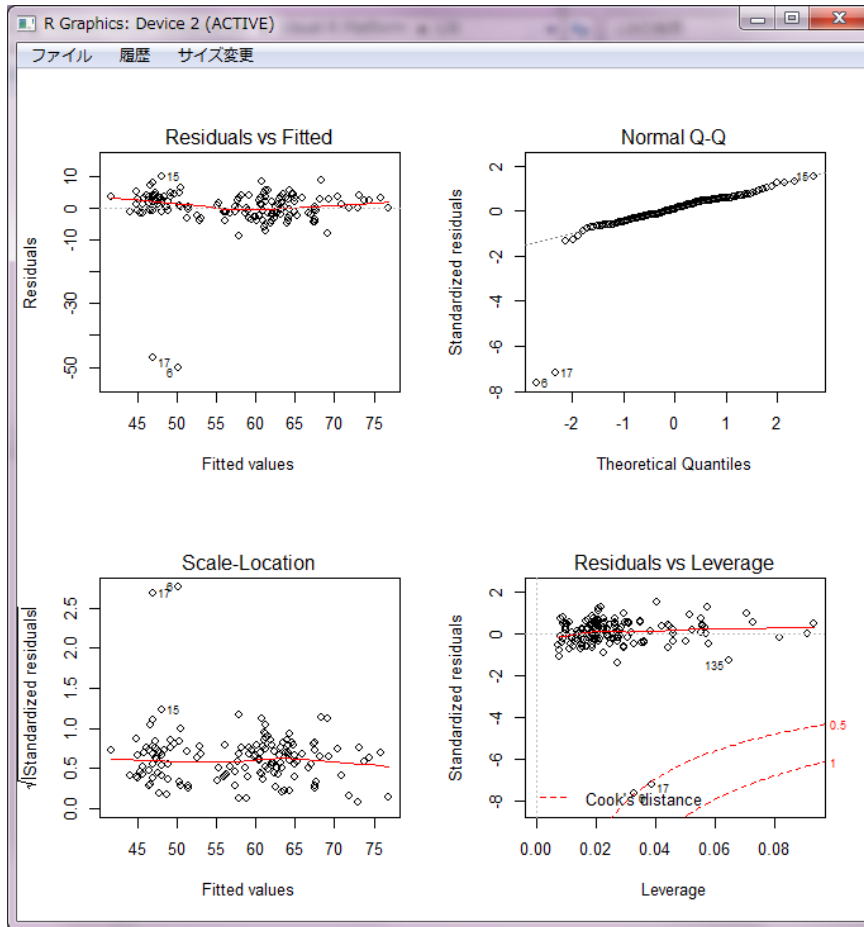


シームレス化 (VRP - VAP 変換アイコンの撤廃)

Visual R Platform バージョン 1.0 では、VRP アイコンと VAP アイコンは直接接続できず、データのやり取りを行う際には、データ変換アイコンを通す必要がありました。バージョン 1.1 では、この変換が自動で行われるようになりました。その結果、データの種類を気にすることなく、どちらのアイコンも相互に接続することができるようになりました。

グラフ表示機能

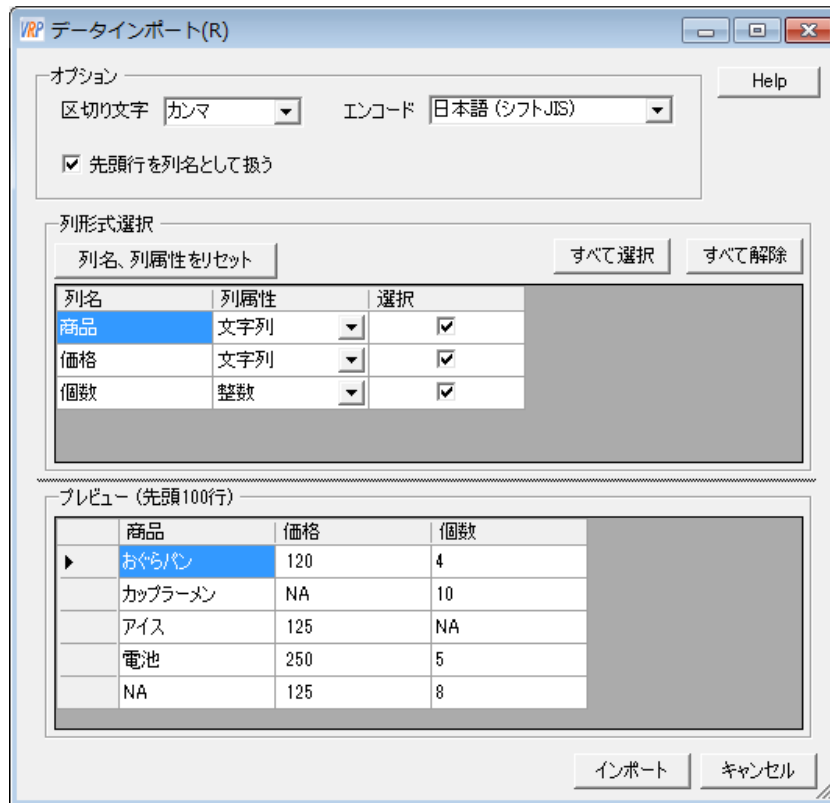
決定木、線形回帰、主成分分析などのいくつかの分析アイコンについて、分析結果をグラフ表示する機能が追加されました。アイコンの右クリックメニューで「オブジェクトビュー」をクリックするだけで、手軽に解析結果をグラフで見ることができます。



結果のグラフ表示例(線形回帰)

CSV ファイルインポート機能の拡張

CSV ファイルのインポート機能が拡張されました。プレビュー機能付きのインターフェースが追加され、インポートする前にデータの確認を行いながら、インタラクティブに列の選択、型の指定、エンコーディングの指定等ができるようになりました。



CSV インポートダイアログ

VAP Web Server への対応

VAP Web Server に対応いたしました。これにより Visual R Platform で作成したプロジェクトを手軽に Web 上に公開できるようになりました。

R パッケージインストール機能

Visual R Platform で使用する R のパッケージを、自動でインストールする機能が追加されました。